

「循環型社会形成研究会」のご案内

21世紀は「環境の世紀」といわれますが、北海道開発政策においても、地球温暖化が顕在化してきている中で、経済、生活の持続的な発展と二酸化炭素削減を達成する低炭素社会の実現に向けた取り組みが急務になってきています。化石燃料エネルギーを中心にした多消費型の経済社会システムから地球環境に負荷を与えない脱炭素への転換を図る、資源循環型の経済社会システムの構築を図りながら、自然と共生する持続的な地域社会の形成を図っていく知恵が求められています。

こうした問題意識のもと、釧路公立大学地域経済研究センターと(財)北海道開発協会では、循環型社会形成の経済的な意義について考えていくとともに、低炭素社会に向けて経済発展と両立させながら着実に取り組みを進めている先行事例などについての調査研究を共同研究として取り組んでおります。

このたびの研究会では、循環型まちづくりの先進事例として、道北の下川町と岩手県紫波町の取り組みをご報告いただくことになりました。関心のある方であればどなたでも参加できます。皆様の参加をお待ちしております。

循環型社会形成研究会代表 小磯修二(釧路公立大学学長・地域経済研究センター長)

テーマ:「循環型まちづくりの取り組み～先行事例から学ぶ～」

基調報告1: 道北・下川町～循環型林業経営とまちづくり～

約4,500haの町有林を基盤に循環型林業経営を行い、地域経済の活性化を図ろうと、独自のまちづくりを進めている下川町。2002年には、(財)下川町ふるさと開発振興公社内にクラスター推進部が発足し、行政とともに地域資源を活用したまちづくりをサポートしてきました。昨年、環境モデル都市にも選ばれ、適切な森林管理と循環型林業経営を通じて、二酸化炭素削減に向けた取り組みも検討されています。今回は、(財)下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進部次長の相馬秀二氏に下川町における循環型まちづくりの取り組みや、環境モデル都市の取り組みなどをご報告いただきます。



木質バイオマスエネルギーを導入した五味温泉

基調報告2: 岩手県紫波町～資源の循環利活用まちづくり～

岩手県紫波町は、2000年に、モノを大切に作る心や生命を育む心、郷土の文化と伝統を伝えていく心を引き継いでいこうという「新世紀未来宣言」を発表し、翌2001年6月に「紫波町循環型まちづくり条例」を制定して積極的に循環型まちづくりを推進してきたまちです。家畜排せつ物や生ごみの堆肥化、間伐材の有効利用、町産木材を活用した木造公共施設の建築など、地域資源の循環利活用を進めています。今回は、紫波町産業部環境課循環政策室長の森川一成氏に、条例制定の背景や、具体的な循環型まちづくりの取り組みなどについて、ご報告いただきます。



環境・循環PRセンター(紫波町HPより)

と き:2009年2月9日(月) 14:00～16:30

ところ:TKP札幌ビジネスセンター カンファレンスルーム5B

(札幌市中央区北3条西3丁目 札幌富士ビル5階)

※札幌西武百貨店南向い、札幌駅南口地下街9番出口直結

※当日のお問い合わせは、TEL(090)8708-4340(関口)まで

参加申し込みは裏面の申込書にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

「循環型社会形成研究会」

2月9日(月)開催研究会参加申込書

所属団体	役職	(よみがな) 氏名	連絡先 (TEL)

必要事項をご記入の上、

FAX(011)631-0540(プランニング・メッシュ 担当:関口) までお申し込みください。

※この件についてのお問い合わせは、TEL(011)631-0540(プランニング・メッシュ 担当 関口まで)

※参加申し込みは、2月5日(木)で、締め切らせていただきますが、定員に達した場合は、期日前に締め切らせていただくもごございますので、あらかじめご了承ください。